

令和5年度 学校自己評価の取組の総括

I 子どもの姿の変容 ざす子どもの姿		児童の現状（取組前の状態）	年度末の児童の現状（取組後の状態）
知	自ら進んで学び、聴き合い、自分の考えを表現できる子	①聴く・話すについて自信を持ってない児童がいる。	<p>【強み】</p> <p>ピラミッドチャートの間層については、できるようになった。</p> <p>【弱み】</p> <p>主体的に考え、活動する力が弱い。</p>
徳	<p>・自分を大切にするとともに、誰に対しても思いやりのある言動ができる子</p> <p>・進んで、元気にあいさつができる子</p>	<p>①優しさを持っているが、自分からその優しさや思いやりを出せない児童がいる。</p> <p>②下級生には優しくできても同学年には自分から思いやることは難しい児童がいる。</p> <p>③SNS によるトラブルがあり、軽い気持ちで人を傷つける言葉を使ってしまう児童がいる。</p> <p>④自己肯定感が低い児童が一定数いる。誰かと比べ、劣っている部分に目を向けてしまっている。</p> <p>⑤あいさつを自分からすることに苦手意識を感じる児童がいる。</p>	<p>【強み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関わりのある友だちに対して、自分から思いやりをもって接することができる児童が多い。また、SNS は一定のルールを守った上で活用できる。 ・あいさつを返す児童が増えている。会釈したり、目を合わしたりするなど礼儀正しい反応ができる児童が多い。 <p>【弱み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他人に対しては優しく接していかなければならないことは理解しているが、自分からさっと行動にうつせる児童が少ない。関わりがあまりない児童の事については、自分事として捉えることができない。 ・自分の思いを素直に他人に伝えられない。 ・自己肯定が低い児童が一定数いる。誰かと比べたり、自分のできないところに焦点を当てたりしている。 ・気持ちを込めて、あいさつをすることがなかなかできない児童がいる。
体	めあてを持って、健康な体づくりができる子	<p>①廊下の歩き方に課題が残った。基本的な歩き方の指導が必要である。</p> <p>②給食で苦手なものがある児童は、昨年度の評価規準通り、一口は食べようとしていた。</p> <p>③外で遊ばない児童が一定数いた。</p>	<p>【強み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦手なものも食べようとする意識が上がってきている。 ・みんなで運動しようというときには外で運動することができる。 <p>【弱み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廊下を走ってはいけないという気持ちはあるが、行動に活かさない子が多い。 ・外で遊びたくないとする児童が一定数いる。

Ⅱ 本年度の取組への意見

① 評価規準について

- ・知領域低学年の文言について、話すことよりも書くことが得意な子どももいるため、「自分の考えを伝えたり」という表現でもよかった。
 - ・集団で運動する機会を増やすことにつながったので、それとともに運動する子が増えた。自らすすんで外で遊ぶために教員が声をかけるなどの手立てが必要な時もある。
 - ・一口と制限すると、一口食べたら終わり子どもが考えてしまうため、自分のめあてを持って取り組んだほうが子どもたちの意識が上がったと考えられる。
- ⇒・R6年度は徳の目指す子ども像が変わるので、評価規準・基準を見直していく。

② 児童アンケートや教員の観察調査について

- ・教員と児童アンケートのずれをこれからどうしていくのかを考える必要がある。
 - ・児童のアンケートは、その時の気持ちが強く出るので、そのあたりも考慮すべきである。
 - ・自分のことが「好き」という質問は、子どもにとって難しい。
- ⇒・教員観察の結果と児童アンケートの結果のずれについては、評価規準・基準の共通理解を図る。それでもずれが大きい場合は原因を踏まえて検討する。
- ・自分のことが「好き」かの設問は、来年度、人権部会で検討する。

③ 知・徳・体の評価シートについて

- ・取り組んだ内容について、課題や成果が確認しやすく共通理解を図ることができる。
- ⇒・来年度もこの評価シートを使用していく。

④ その他

<学校運営協議会からのご意見>

- ⇒・資料4 「児童アンケート・教員観察結果数値化」については、A=3 B=2 C=1 の表記があった方が分かりやすい。
- ・資料4 「児童アンケート・教員観察結果数値化」の表の徳に「思いやり」「あいさつ」体に「運動と健康」「食と健康」と追記した方が分かりやすい。
 - ・あいさつ運動での大きな声でのあいさつだけでなく、会釈するなどの自然なあいさつができるようになることが大切である。